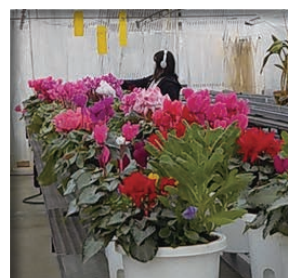


専修学校
**滋賀県立
農業大学校**

R9年度入学生用 学校要覧



**SHIGA PREFECTURE
AGRICULTURAL COLLEGE**

■教育方針

滋賀県の次代の農業経営を担い、地域社会における農業の振興等に指導的役割を果たす人材を養成する。

1

農業を行うために必要とされる高度な専門知識技術および経営能力を養成する。

2

実践学習を通じて、農業者としてふさわしい幅広い視野を持った経営能力および組織活動能力を養成する。

■教育研修体系

養成科と就農科を柱に、滋賀県農業を担う優れた人材を育成しています。

滋賀県立農業大学校

養成科

修業年限:2年
定員:1学年 30名

卒業時には「専門士」の称号を取得

●農産課程
●園芸課程

●畜産課程

○水田農業専攻

○施設園芸専攻

●野菜コース ●花きコース

○果樹専攻

○畜産専攻

○茶専攻

就農科

修業年限:1年
定員:15名

●園芸専攻

○野菜

○花き

○果樹

※就農科は専修学校には該当しません

■滋賀農大の魅力

■養成科

○現場で即戦力になる“実践教育”

- ・農業や関連産業の現場で役立つ技術を徹底的に習得
- ・技術に裏付けられた知識や資格も取得可能

○一生の財産になる“強力なネットワーク”

- ・少人数制で、専攻ごとに濃密に学べる環境
- ・学生同士はもちろん、卒業生、農業経営者、県農業技術者、研究者、各種専門家など、講義や視察を通じてつながる機会が豊富

○安心して学べる“充実した支援制度”

- ・専修学校として、奨学金・学費減免などの制度が利用可能
- ・卒業時には「専門士」の称号を取得
- ・学費が比較的安く、就農予定者は補助金（就農準備資金）を受けられる可能性も

■就農科

- ・就農に向け実践的な技術が習得できる
- ・養成科の講義も受講でき、養成科同様に多くの資格の受験機会がある
- ・多くの卒業生とのネットワークが広がり、経営の強みとなる
- ・就農予定者は、要件を満たせば、在学中に国の新規就農者育成総合対策（就農準備資金）の支援を受けることができる（年齢・所得等の要件あり）

■資格などの取得支援

希望者は、就農や就職に必要とされる各種資格免許の取得が可能。（資格試験受験料は実費負担）

○本校で実習・講義

- ・大型特殊免許（農耕用）
- ・けん引免許（農耕用）
- ・危険物取扱者（乙種第4類）

○希望者に向けた支援

令和7年度校内実施

- ・農業簿記検定
- ・農業技術検定
- ・農業用ドローン講習
- ・フォークリフト運転技能講習

情報提供等

- ・アーク溶接特別教育
- ・毒物劇物取扱者（農薬用品目）
- ・家畜人工授精講習（畜産専攻生）
- ・床上操作式クレーン運転技能講習
- ・小型移動式クレーン運転技能講習
- ・玉掛け技能講習
- ・小型車両系建設機械運転特別教育
- ・車両系建設機械技能講習



養成科

優れた青年農業者を育成するため、高等学校を卒業した者、または同等以上の学力を有すると校長が認めた者を対象に実践教育を行います。

■教育課程

専攻（コース）・教育場所

課 程	専 攻（コース）	教育場所	修業年限	入学定員
農 産	水田農業	本校	2 年	1 学年 3 0 名
	茶	本校、茶業指導所		
園 芸	施設園芸（野菜・花き）	本校		
	果 樹			
畜 産	畜 産	本校、畜産技術振興センター		

※専攻（コース）の教育場所は1年生の9月以降で、それまでは全員本校となります。

※茶業指導所は甲賀市水口町水口、畜産技術振興センターは蒲生郡日野町山本にあります。

■教育体系

学習概要・年間行事

月	1 年生	2 年生	主な行事	
	春期休業	春期休業	春期休業	
4	教養・ 共通学習	専攻学習・ 共通学習	入学・入校式、始業式、新入生オリエンテーション プロジェクト計画検討会	
5			校内体育大会	
	トラクタ研修、三者面談			
6	教養・ 共通学習		東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会	
7			トラクタけん引研修	
8	夏期休業	夏期休業	前期試験、終業式	
9	専攻学習・ 共通学習	夏期休業	夏期休業	
10		農業体験学習	始業式	
11		専攻学習・ 共通学習	1 年生研修旅行	
			農業体験学習報告会	
12			収穫祭	
	冬期休業	冬期休業	プロジェクト研究発表会	
1	専攻学習・ 共通学習	専攻学習・ 共通学習	終業式	
2			冬期休業	冬期休業
3			冬期休業	始業式
		専攻学習・ 共通学習	東海近畿農業大学校意見研究発表会	
	家庭学習	後期前半試験	全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会	
	春期休業	卒業・修了証書授与式	後期後半試験、終業式	
			春期休業	

※1年生の後期以降にも一部教養学習はあります

※休業は春期3月21日～4月10日、夏期7月21日～8月31日、冬期12月23日～1月7日の期間です

■学習時間

校 時	時 間	備 考
第 1・2 時 限	9:00～10:30	講義、実習、ゼミナール等
第 3・4 時 限	10:40～12:10	
第 5・6 時 限	13:10～14:40	
第 7・8 時 限	14:50～16:20	

■教育科目 ■専攻別学習内容・実習

教養科目	1年生	経済 法律 体育 キャリアデザインⅠ 農業基礎 情報処理Ⅰ 学習方法論Ⅰ
	2年生	キャリアデザインⅡ 学習方法論Ⅱ
専門科目 (共通科目)	1年生	農業政策 農業経営 農業簿記 農産物流通 農業技術概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 農業機械(学科・実技) 土壌肥料 気象と農業災害 農業概論 特殊技術学習 労働衛生 環境と農業 みどり戦略Ⅰ スマート農業 農業生産管理 複合経営・多角経営 農業機械実習 基礎実習 農業体験学習Ⅰ
	2年生	農産物マーケティング 6次産業化農業 情報処理Ⅱ みどり戦略Ⅱ 農業体験学習Ⅱ

特別活動	学校行事	入学・入校式 始業式 終業式 卒業・修了証書授与式 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会 校内体育大会 研修旅行 収穫祭 プロジェクト発表会
	特別学習	指導農業士・本校卒業生の講話 進路ゼミ 特別講義
	自治会活動	学生自治会主催の活動(新入生歓迎会・収穫祭等) クラブ活動(有志)

専攻(コース)別科目

農産課程		園芸課程		畜産課程	
水田農業専攻		施設園芸専攻(野菜コース)		畜産専攻	
水稻や麦大豆・露地野菜などの栽培技術、農業機械の操作を習得します。		少量土壌培地耕によるトマト・キュウリ・イチゴなどを中心に栽培技術を習得します。		「近江牛」で知られる肉用牛をはじめ、乳用牛や鶏などの飼養管理技術を習得します。	
					
1年生		1年生		1年生	
水田農業概論 水稻栽培Ⅰ 大豆栽培 土地利用型園芸Ⅰ 農業機械(水田作業機) 植物保護 作物病虫害 稲作経営 専攻演習(ゼミナール)Ⅰ 実習およびプロジェクト学習Ⅰ		施設園芸総論 キュウリ栽培 トマト栽培 イチゴ栽培 軟弱野菜栽培 土地利用型園芸Ⅰ 園芸用施設 植物保護 野菜経営 専攻演習(ゼミナール)Ⅰ 実習およびプロジェクト学習Ⅰ		畜産総論 飼養管理Ⅰ 家畜育種 家畜栄養 家畜繁殖 家畜衛生 家畜解剖 飼料作物Ⅰ 畜産物流通 専攻演習(ゼミナール)Ⅰ 実習およびプロジェクト学習Ⅰ	
2年生		2年生		2年生	
水稻栽培Ⅱ 麦類の栽培 水田雑草対策 土地利用型園芸Ⅱ 専攻演習(ゼミナール)Ⅱ 実習およびプロジェクト学習Ⅱ 卒業論文		ナス栽培 メロン栽培 土地利用型園芸Ⅱ 少量土壌培地耕システム 専攻演習(ゼミナール)Ⅱ 実習およびプロジェクト学習Ⅱ 卒業論文		飼養管理Ⅱ 生物工学 飼料作物Ⅱ 畜産経営 専攻演習(ゼミナール)Ⅱ 実習およびプロジェクト学習Ⅱ 卒業論文	
茶専攻		施設園芸専攻(花きコース)		果樹専攻	
1200年の歴史と伝統ある「近江の茶」の栽培と近代的な製茶技術を習得します。		切り花(バラ・キクなど)や鉢花(シクラメン)、花苗などの栽培管理技術を習得します。		ブドウ・ナシ・モモ・カキ・イチジクなどの果樹栽培技術を習得します。	
					
1年生		1年生		1年生	
茶の栽培基礎Ⅰ 茶の栽培応用Ⅰ 茶園の施肥法Ⅰ 茶の製造・再製Ⅰ 茶の化学 植物保護 茶の病虫害 茶業経営 専攻演習(ゼミナール)Ⅰ 実習およびプロジェクト学習Ⅰ		施設園芸総論 バラ栽培 カーネーション栽培 キク栽培 草花栽培 土地利用型園芸Ⅰ 園芸用施設 植物保護 フラワーデザイン 専攻演習(ゼミナール)Ⅰ 実習およびプロジェクト学習Ⅰ		果樹総論 ナシ栽培 ブドウ栽培 モモ栽培 カキ栽培 植物保護 果樹病虫害 専攻演習(ゼミナール)Ⅰ 実習およびプロジェクト学習Ⅰ	
2年生		2年生		2年生	
茶の栽培基礎Ⅱ 茶の栽培応用Ⅱ 茶園の施肥法Ⅱ 茶の製造・再製Ⅱ 専攻演習(ゼミナール)Ⅱ 実習およびプロジェクト学習Ⅱ 卒業論文		鉢花・花苗栽培 洋ラン・観葉植物栽培 花き経営 少量土壌培地耕システム 専攻演習(ゼミナール)Ⅱ 実習およびプロジェクト学習Ⅱ 卒業論文		イチジク栽培 ブルーベリー栽培 各種果樹栽培 果実の化学 果樹経営 専攻演習(ゼミナール)Ⅱ 実習およびプロジェクト学習Ⅱ 卒業論文	

農業体験学習Ⅰ・Ⅱ

1年生は4日間、2年生は2か月間、先進農家において地域農業の実態に接し、農業技術やその経営感覚を学びます。



農業体験学習Ⅰ



スマート農業(ドローン体験)



ASIAGAP認証の更新審査(メロンでASIAGAP認証を取得しています)。



農業機械実習

プロジェクト学習とその成果発表

2年生は、課題解決学習の一環として、各学生が課題を1つ設定し、その解決方法のための計画の樹立、栽培・飼養の管理、調査の実施、結果の取りまとめといった一連の流れを実践する、プロジェクト活動に取り組んでいます。その結果をまとめ、1人ずつ発表に臨みます。優秀者は、当校を代表し東海近畿プロジェクト発表会に参加し、全国プロジェクト発表会を目指します。



プロジェクト研究発表会

Shiga Prefecture Agricultural College

CAMPUS LIFE

■ 学校生活

2年間の学生生活では、各専攻学習や各種資格取得のほか、1・2年生が協力して学生自治会活動等に自主的・精力的に取り組んでいます。

● 学校行事、学生自治会活動等



○春期休業（～4/10）

- 入学・入校式、始業式
- 新入生オリエンテーション
- プロジェクト計画検討会

- 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会
- トラクタけん引研修

○夏期休業（～8/31）



入学・入校式

校内体育大会



東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会



トラクタ研修



トラクタけん引研修



農業体験学習報告会



収穫祭



卒業・修了証書授与式



全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会



研修旅行（1年生）



農大農産物直売所「フレッシュ 503」

経営感覚を身につけるため、実習で収穫された作物、花、野菜、果物を販売します。月2回、第1・第3水曜日に開催。

■学費等（金額等は令和8年4月現在のものであり、変更する場合があります）

- ① 授業料は年額118,800円で、入学金および受験料は不要
- ② 教科書代、研修旅行代、東海近畿スポーツ大会参加料、保険代、校外学習農家派遣費等で1年次12万円、2年次5万円、また本校育友会費が年額3万円必要
- ③ 資格試験受験料は実費負担

■応募資格

〈推薦入試〉高等学校長が推薦する者で次の要件を満たす者

- ① 滋賀県農業の発展に貢献しようとする意志がある者（滋賀県内在住に限らない）
- ② 令和9年3月に学校教育法に規定する高等学校卒業見込みの者で、本農業大学校を専願する者
- ③ 学業成績の評定平均が3.0以上であり、人物および健康に優れている者

〈一般入試〉学校教育法に規定する高等学校を卒業した者および令和9年3月卒業見込みの者または、これと同等以上の学力を有すると本校校長が認めた者

先輩からのメッセージ

施設園芸専攻 花きコース
2年 石水 麻莉奈さん
(湖南農業高校 卒業)



農大での最大の魅力は、実践的な農業が学べるということです。農業が未経験の人でも技術や知識、経験を得ることができます。私が農大を進学先を選んだ理由は、将来施工管理の職種に就きたいと思い、農大であればそれに関する植物についても詳しく学べると思ったからです。また農大では、資格取得のための技術や知識を授業で学ぶことができるため、普通に取得するよりも取りやすいです。先生や先輩からのサポートも厚く、興味のある方は一度オープンキャンパスに来てください。

果樹専攻
2年 高埜 豪輝さん
(ECC学園高校 卒業)

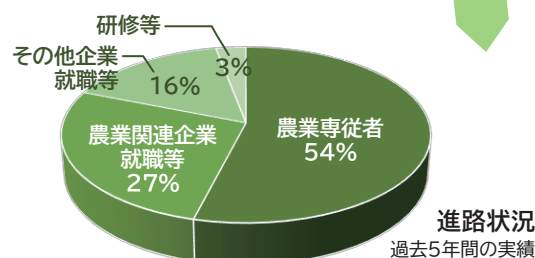


農大は、知識や技術が0からでも農業が学べるところです。実習では技術を学ぶことができ、それも基礎の基礎から教えてもらえます。座学では専攻している作物の知識に加え、農薬、病害虫、農業簿記、危険物乙種第4類などについても学べます。私は通信高校出身で、農業の知識や経験は0でしたが、農大に入学して1から先生方に教わり、農家さんの所へ研修に行っても役に立てるようになりました。さらに大型特殊免許（農耕用）、農業簿記3級、フォークリフトの資格等を取得できました。興味のある方はぜひ一度オープンキャンパスに来てください。

卒業生の進路など

卒業時の進路状況（過去5年間の実績）

- ◎農業専従者（自営および雇用就農） 54%程度
- ◎農業関連企業就職 27%程度
- ◎その他企業就職等 16%程度
- ◎研修等 3%程度



過去5年間（令和3年度末から令和7年度末まで）の進路状況は、卒業生118名に対して、就農者は、64名、農協や関連企業への就職者数は32名となっています。

就農者は滋賀県農業の担い手として、自営だけでなく農業法人でも活躍しています。また、農協や農業関連企業に就職した者も地域農業の指導的な役割を果たし活躍しています。

【農業関連就職先(一例)】 JAレーク滋賀、レーク伊吹農業協同組合、全農しが、(株)北陸近畿クボタ、(株)ヤンマーアグリジャパン、マキノピックランド、守山フルーツパーク、畜産技術振興センター技術員、一般社団法人滋賀県畜産振興協会、(株)ゼブラグリーン など

専攻

専攻	選択作目	修業年限	定員
園芸	野菜 花き 果樹	1年	15名

研修内容

個々の研修生の知識・経験等を勘案しながら農業経営に必要な実践的な講義ならびに実習を行います。

実習

○栽培管理実習

野菜では、就農科専用の施設を活用して栽培管理技術を習得します。
花き・果樹では、養成科の施設園場等を活用して栽培管理技術を習得します。

○販売管理実習

栽培管理実習で得られた農産物について、収量や直売記録を通じた実践的な販売管理を学びます。

○経営管理実習

栽培管理実習・販売管理実習の結果を記帳し、実習の成果を数字で表すことにより緊張感ある実習とします。

講義

○経営管理技術

農業経営管理基礎
農業政策・法務
パソコン農業簿記
農業マーケティング論

○栽培管理技術

選択作目の概論
(野菜・花き・果樹のいずれか)
選択作目の生理・生態
選択作目の栽培管理法

※この他に養成科の講義を聴講することができます。

○就農計画ゼミ

研修終了後の農業経営について経営計画を樹立します。

○就農検討会

就農に向けた準備の具体化を行うため、研修生の就農先の指導機関と連携のもと、研修の進行管理や就農に向けての計画の内容について検討を行います。

○就農計画発表会

就農検討会の中で作成した就農計画をもとに、指導機関や校内関係者向けに自身の計画の発表を行う。1年間の研修の集大成となる。

その他

就農に向けて必要な資格・技術は養成科の講義を受講することにより取得することができます。(養成科の資格取得を参照)



イチゴの収穫作業



イチゴの調整作業



白ネギの播種作業



イチゴベンチの組立



パソコン農業簿記



就農計画発表会

■就農科の1年 ～就農計画、就農準備～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
就農計画 樹立	計画案の 策定	第 1 回 就農検討会		計画の具体化 (品目確定、数字の具体化、 制度資金活用計画、他)			第 2 回 就農検討会		計画の確定・認定取得				
									公庫審査～融資決定				
圃場準備	ハウス・設備の見積もり 農地の取得・利用権設定準備 融資の相談、情報収集							施工業者選定～施工（整地、施設） 農地取得手続き					
就農関連 講義	農業経営管理基礎～農業政策・法務（公庫、基金 からの説明含む）、農業簿記、PC簿記							農業マーケティング論、他					

就農

就農

※休暇：夏季休業（月・水・金の通常実習＋当番制実習があります）、冬季休業があります

■就農科の1日 ●9:00登校、16:20下校 ●作物の生育状況などに合わせて作業をします

9:00	10:30	10:40	12:10	13:10	14:40	14:50	16:20
1限	休憩	2限	昼休憩	3限	休憩	4限	
収穫・調整		収穫・調整 栽培管理		栽培管理 講義		栽培管理 講義	

※作業内容により、時間等変更する場合があります

■学費等（金額等は令和8年4月現在のものであり、変更する場合があります）

- ① 受講料は年額59,400円で、入学金および受験料は不要
- ② 保険代として年額10,550円、教科書代や資格試験受験料は実費負担

■応募資格（次の①から④の要件をすべて満たす者）

- ① 20歳以上65歳未満の者（令和9年4月1日現在）
- ② 研修終了後、滋賀県内において(1)と(2)の要件のうちいずれかを満たす者であること
 - (1) 農業経営を行うことが確実な者（親元就農、第三者継承を含む）
 - (2) 農業法人等（農業部門を立ち上げる法人を含む）の経営者もしくは農業部門責任者になる者
- ③ ②の(1)に該当する者は、出願時に就農する農地が確保できているか、確保できる見通しがある者、また、②の(2)に該当する者は、農業法人等の推薦を受けた者
- ④ 就農予定地を管轄する県農業農村振興事務所農産普及課と十分な事前相談を行った者

■就農プレ講座 ●滋賀県において野菜・花・果樹で新規就農を希望される方への講座です

5月と9月に「野菜・花・果樹」についての講座が開催されます。講座の内容は、栽培技術や作業についての講義・実習、新規就農者事例発表、就農までのステップなど。

就農科へ入校を考えておられる方へのオープンキャンパスも兼ねています。

■開放講座 農業大学校では、農業者のみならず向けに研修を実施しています。詳しくは農大ホームページをご覧ください。

■農業機械研修Ⅰ 農業機械の基本操作や点検技術を学びたい滋賀県農業者の方に対する研修

研修名	内容	開催時期	定員
農業機械基本研修 【実技編】	農作業初心者に向けた農作業安全研修（農業機械の基礎知識、トラクタによる耕うん作業、草刈作業の基本など初歩的な技能の習得）	10月	20人
農業機械基本研修 【点検編】	トラクタおよびコンバインの点検整備（実技編を受講していなくても受講可能）	12月	20人



農業機械基本研修風景

■農業機械研修Ⅱ 大型特殊（農耕用）免許やけん引（農耕用）免許の取得を希望される滋賀県農業者の方に対する研修

研修名	内容	開催時期	定員
トラクタ基本研修	トラクタの構造、運転操作等、大型特殊（農耕用）免許の取得を目指す	10月	20人
けん引研修①②	トレーラーの運転操作、けん引（農耕用）免許の取得を目指す	①10月 ②11月	各15人



けん引研修風景

本校施設

教育研修施設配置図

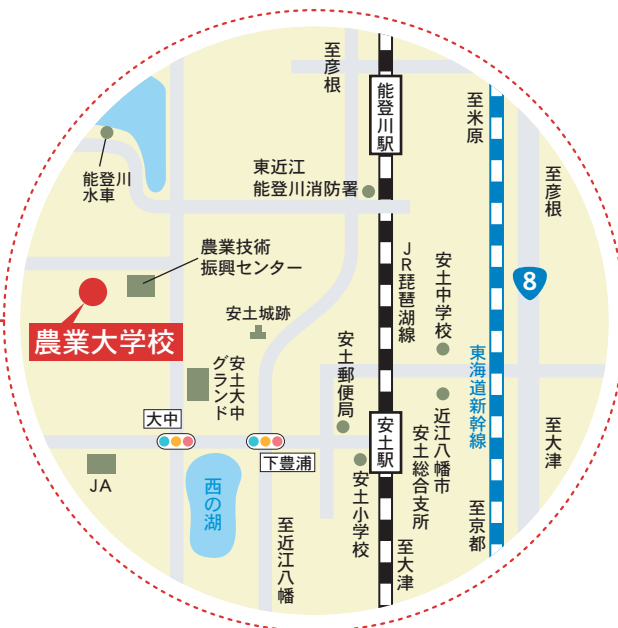
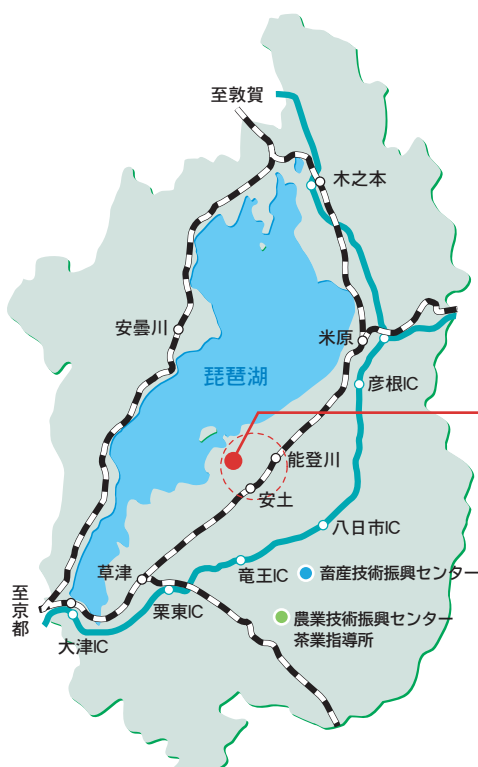


用地	敷地（総面積）		85,906 m ²
		農業用地	64,251 m ²
		農業外用地	21,655 m ²
本館および附属施設	研修館（校長室、職員室、教室、会議室、図書室等）		延べ 925 m ²
	あしば研修館（情報処理室、ゼミ室、就農相談室等）		358 m ²
	学生会館（学生ホール、談話室、保健室等）		延べ 1,265 m ²
	体育館		694 m ²
	トラクタ練習場		5,500 m ²
専攻学習施設	ほ場	水田	435a
		果樹園	41a
		露地畑	30a
	施設	鉄骨ガラス温室	6棟 1,613 m ²
		鉄骨ビニールハウス	6棟 1,098 m ²
		パイプビニールハウス	11棟 2,628 m ²
		農業機械研修室	120 m ²

沿革

昭和44年	4月	滋賀県立高等営農学園を開校する（定員：本科80名、別科若干名）
昭和45年	4月	短期研修科を設置する（定員：若干名）
昭和50年	4月	滋賀県立営農大学校と改称する（定員：本科40名、別科10名、短期研修科若干名）
昭和52年	10月	農林水産省の農業者研修教育施設（農業改良助長法による）指定校となる
昭和54年	4月	別科を廃止、本科定員50名とする
平成元年	4月	滋賀県立農業大学校と改称する（定員：本科30名）
平成11年	4月	研修科を設置する（定員：若干名、6ヶ月）
平成19年	4月	農林水産省の農業者研修教育施設に加え、 学校教育法に基づく文部科学省の専修学校となる 本科を養成科と改称、研修科を就農科に改組する（定員：若干名、1年） 寮制度を廃止する
平成26年	4月	就農科定員10名とする
令和3年	4月	就農科定員15名とする

【 本校所在地と交通手段 】



京都から	JR 京都駅	JR 琵琶湖線	新快速	約43分	JR 能登川駅 新快速停車駅	【朝・夕運行】 スクールバス 約10分 (5km)	農大
大阪から	JR 大阪駅	JR 京都線・琵琶湖線	新快速	約75分			
福井から	JR 敦賀駅	JR 北陸線・琵琶湖線	新快速	約75分			



専修学校

滋賀県立農業大学校

〒521-1301 滋賀県近江八幡市安土町大中503番地

TEL. 0748-46-2551 FAX. 0748-46-2552 E-mail: gc61@pref.shiga.lg.jp

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/daigakkou/>



ホームページ



Instagram